

BSEプリオンの蓄積に関する最新の科学的知見の概要

資料7

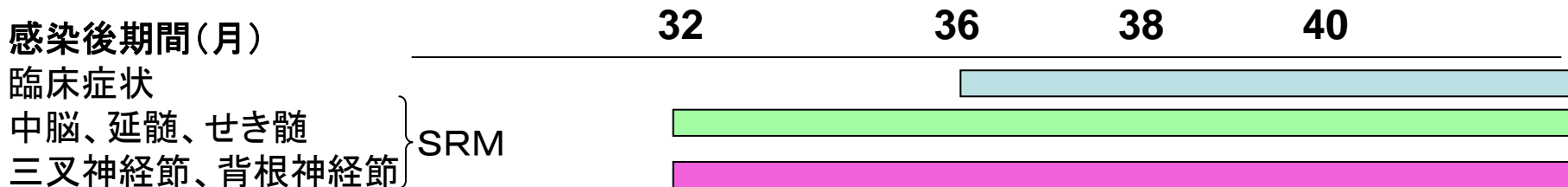
<英国におけるBSEプリオン感染実験結果概要>

OBSE牛の脳幹3×100g~1mgを牛に経口接種

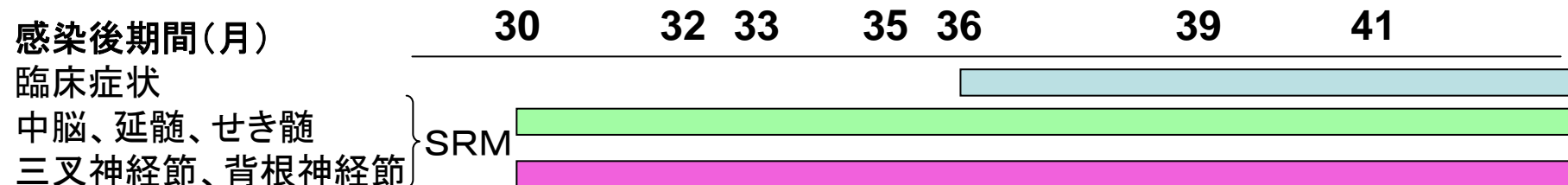
感染量	陽性頭数 /感染頭数	潜伏期間(月)		
		範囲	平均	平均値の標準誤差
フェーズ1				
3×100g	10/10	33~45	37	1.2
100g	10/10	31~60	44	2.8
10g	7/9	41~72	53	4.9
1g	7/10	45~72	58	3.2
フェーズ2(中間結果)				
1g	3/4	58~73	65	4.4
100mg	7/15	53~98	72	6.6
10mg	1/15	56	—	—
1mg	1/15	68	—	—
↓				
1g感染群のまとめ				
1g	10/14	45~73	60	2.7

<英国獣医学研究所BSEプリオン感染実験結果概要>

1 感染後のプリオンの蓄積(BSE牛の100g当量の脳幹を牛に経口感染)



2-1 感染後のプリオンの蓄積(BSE牛の100g当量の脳幹を牛に経口感染)



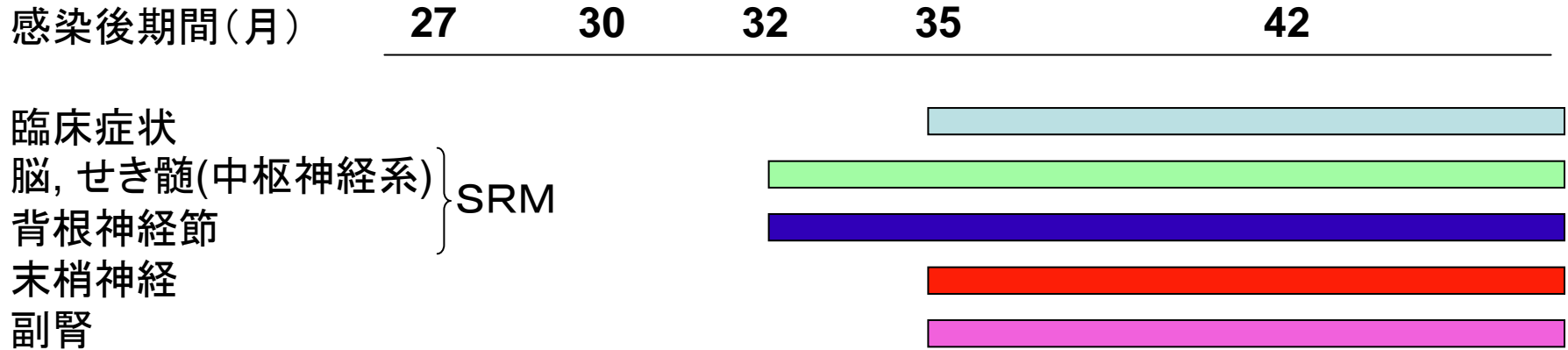
2-2 感染後のプリオンの蓄積(BSE牛の1g当量の脳幹を牛に経口感染)



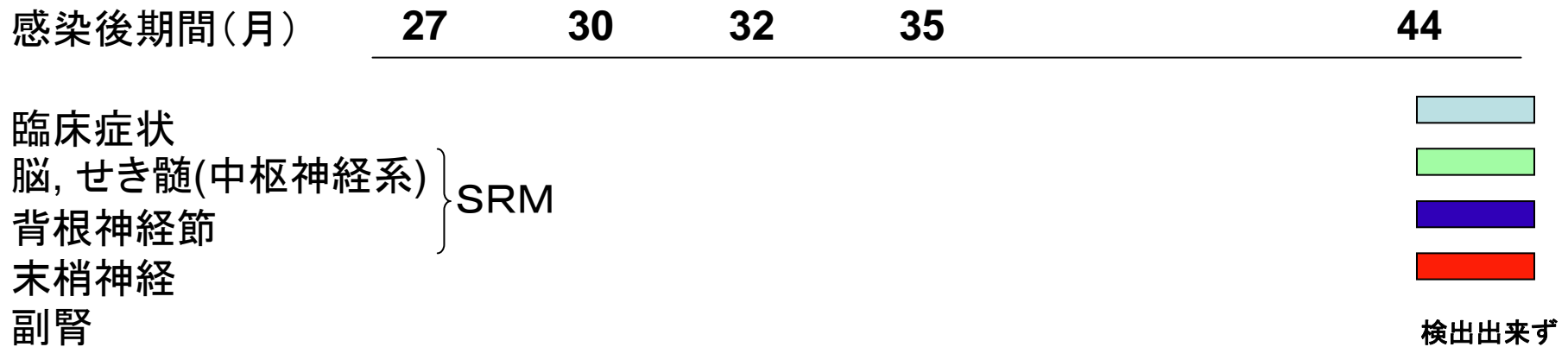
*背根神経節については感染48ヶ月後から検出

<動物衛生研究所BSEプリオン感染実験結果概要>

①感染後のプリオンの蓄積(BSE牛の100g当量の脳幹を牛に経口感染)



②感染後のプリオンの蓄積(BSE牛の1g当量の脳幹を牛に経口感染)



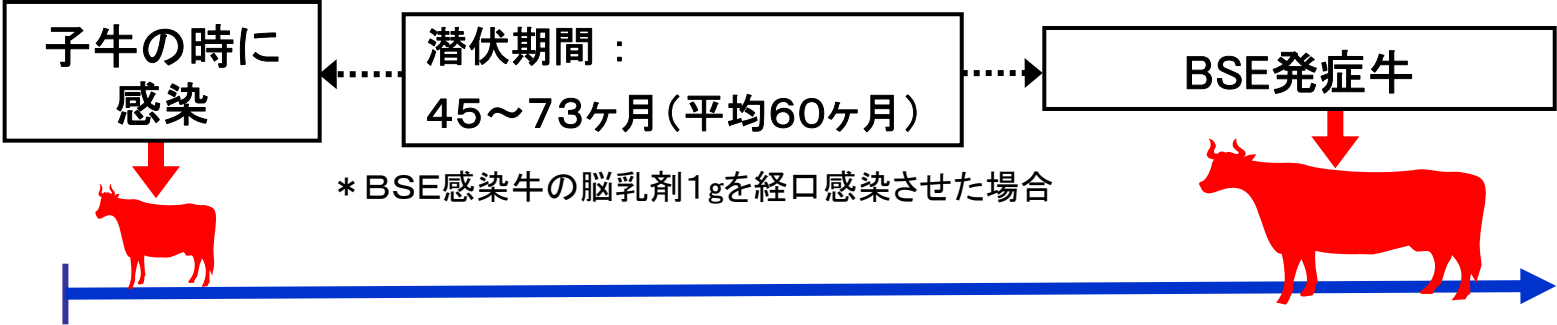
<ドイツにおけるBSEプリオン感染実験結果概要>

○BSE牛の100g当量の脳幹を牛に経口感染

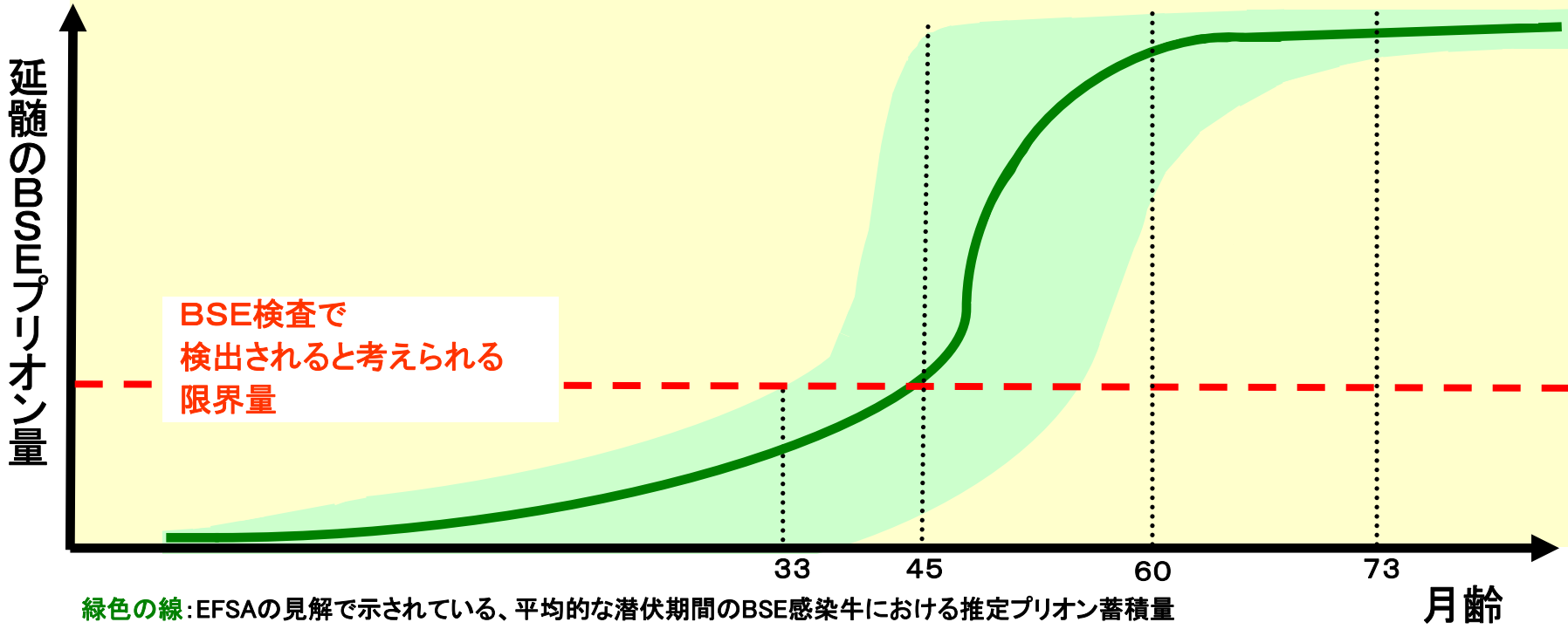
	部位	牛A (感染後24ヶ月)	牛B (感染後28ヶ月)
中枢神経系	延髄、橋	+	+
	中脳	-	ND
	せき髄	+	-
	背根神経節	-	-
末梢神経系	腹腔神経節及び 後腸間膜動脈神経節	+	-
	その他末梢神経	-	-
	回腸	+	-

出典:C. Hoffmann et al. 2007, Journal of General Virology (88) 1048-1055

EFSAの潜伏期間及び検査月齢に関する最新の考え方



現在の検査では摘発不可能 | 延髄検査部位で検出可能



出典: Opinion of the Scientific Panel on Biological Hazards on the assessment of the likelihood of the infectivity in SRM derived from cattle at different age groups estimated by back calculation modeling, The EFSA Journal (2007) 476, 1-47を基に作成